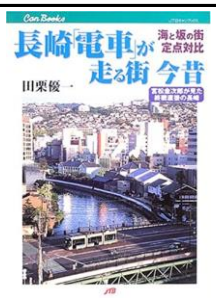
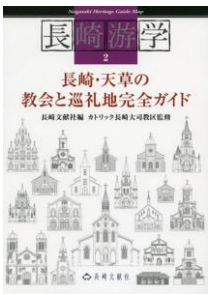
郷土学習セット「3-5　高校生向け　歴史」から６冊を紹介します。

1	『《トピックスで読む》 長崎の歴史』 江越 弘人／著 弦書房	本書で取り上げられている「長崎」の範囲は、江戸時代唯一の開港場であった「長崎」にかかわる地域です。長崎という土地に生きた人間と、日本全体の動きに連動してきた歴史とを描き出します。原始古代から現代まで、２００項目のトピックスが語る長崎の通史です。	
8	『遠藤周作と歩く 「長崎巡礼」』 （とんぼの本） 遠藤 周作／著 芸術新潮編集部／編 新潮社	遠藤周作の著書「沈黙」「女の一生　一部・キクの場合」「女の一生　二部・サチ子の場合」は江戸期から昭和に至る長崎を舞台にしています。この本は、この三部作に書かれた実在の舞台を小説の文章と共に辿っていくものです。	
20	『対馬からみた日朝関係』 （日本史リブレット） 鶴田啓／著 山川出版社	対馬は古くから日本と朝鮮半島の交流に深く関わってきました。中世から近世にかけての対馬と朝鮮の貿易・外交の様子。対馬藩が果たしてきた役割。廃藩置県による対馬藩の消滅までの日朝関係について学べます。	
26	『長崎「電車」が走る街 今昔』 （ＪＴＢキャンブックス 鉄道） 田栗 優一／著 ©JTBパブリッシング	長崎電気軌道が大正３年に創立されてから９０年経った平成１７年に発行された本です。各電停ごとに、大正、昭和の時代と平成が写真で比較して見れます。開業から平成１７年までの車両や乗車券についての解説もあります。	
29	『長崎県の歴史散歩』 長崎県高等学校教育研究会地歴公民部会歴史分科会／編 山川出版社	長崎の歴史が盛りだくさんの一冊です。初めから最後まで読んで長崎の歴史をまるごと知るのも良し、知りたい市町の歴史だけ読むのも良し、長崎県の原始時代から現代までをまとめて紹介している「長崎県のあゆみ」を読むのも良しの一冊です。	
30	『長崎遊学２ 長崎・天草の教会と 巡礼地完全ガイド』 長崎文献社	第１部では長崎県にある138の教会をカラー写真と地図付きで紹介しています。教会設立の背景なども知ることができます。第２部では殉教者を偲ぶ巡礼地として、長崎、長崎郊外、大村湾、平戸、五島、天草・島原半島の巡礼地を紹介しています。